

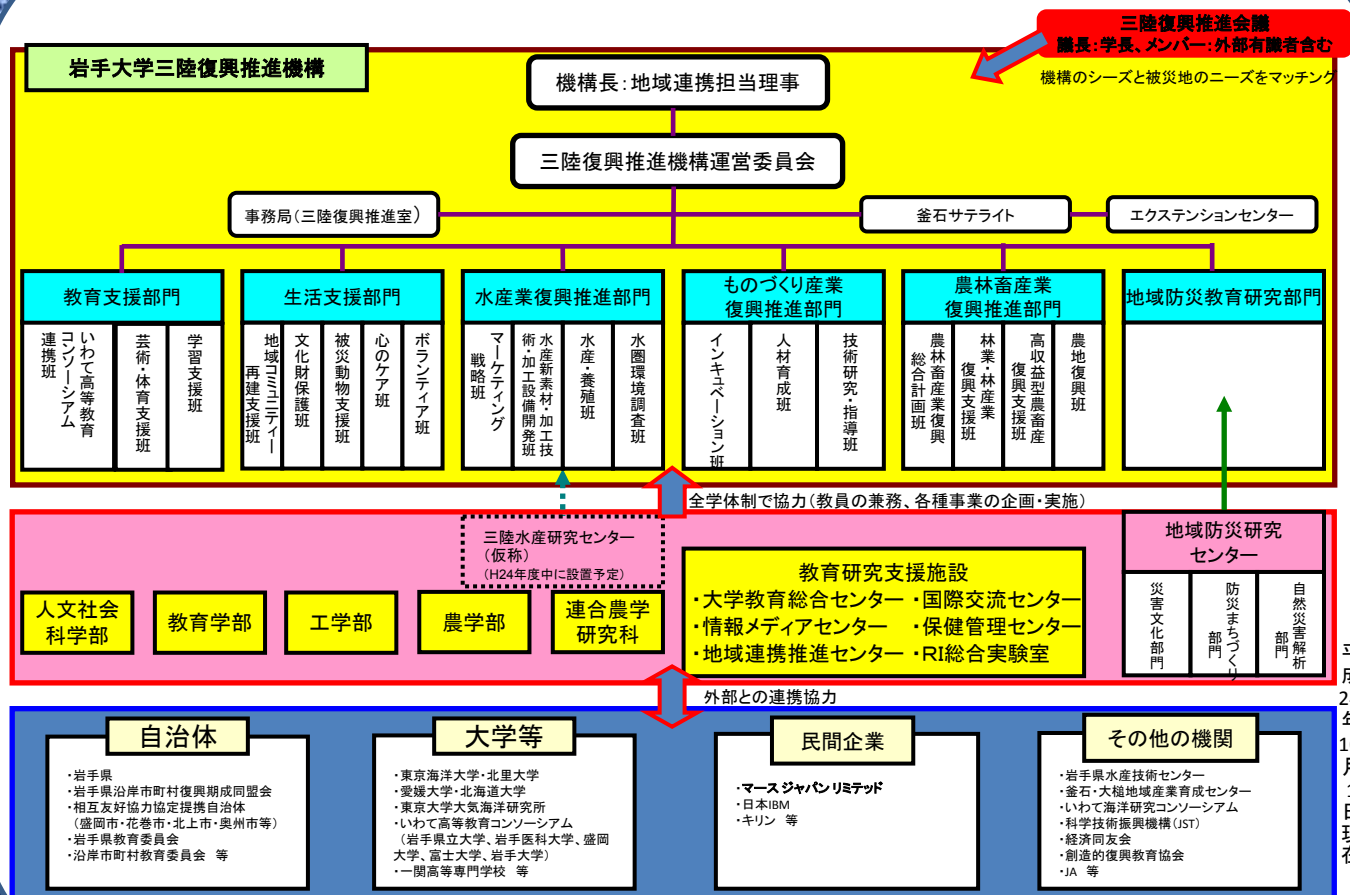
岩手大学の震災復興の取組

平成24年度がスタートした4月1日、岩手大学の新たな三陸復興推進の要となる「**岩手大学三陸復興推進機構**」が発足しました。

岩手大学三陸復興推進機構は、平成23年10月に設置した岩手大学三陸復興推進本部を発展的に改組し、新たに学則に基づき全学組織として位置づけたものです。

前身である岩手大学三陸復興推進本部の**6部門体制**(①**教育支援**、②**生活支援**、③**水産業復興推進**、④**ものづくり産業復興推進**、⑤**農林畜産業復興推進**、⑥**地域防災教育研究**)を踏襲しつつ、各部門に特任教員や特任研究員等を新たに配置し、復興支援活動に携わる教職員数を拡充しました。また、沿岸の活動拠点である釜石サテライトに次いで、久慈市エクステンションセンター(4月3日開所)と宮古エクステンションセンター(10月1日開所)を開設し、三陸沿岸地域での活動体制を強化しました。

岩手大学三陸復興推進機構 (H24.4.1設置)



三陸復興推進機構 教育支援部門

「学習支援班」、「芸術・体育支援班」、「いわて高等教育コンソーシアム連携班」の3つの班から構成されています。

小中学生を対象とした放課後学習支援や、芸術・スポーツ分野による小中学校の教育支援を実施するほか、地域の中核的人材育成を目指すいわて高等教育コンソーシアムと連携して事業展開していきます。

主な取り組み

「**学習支援班**」では、23年度に大槌町、釜石市及び宮古市で、高校受験を控えた中学3年生を対象として学習支援を実施しました。24年度は釜石市に継続して支援しています。

平成23年度の活動実績

場所	活動期間	活動人数
大槌町	H23.12.25～ H24.02.12	延べ 29名
釜石市	H23.12.25～ H24.03.04	延べ 29名
宮古市	H24.01.06～ H24.01.08	延べ 39名



釜石会場での
学習支援



「**いわて高等教育コンソーシアム班**」では、岩手県内高等教育機関の連携機関である「いわて高等教育コンソーシアム（連携機関：岩手大学、岩手県立大学、岩手医科大学、富士大学、盛岡大学、放送大学岩手学習センター、一関工業高等専門学校）」が取り組んでいる地域の復興を担う中核的人材育成事業に関する情報を共有しつつ、三陸復興推進機構の連携窓口として対応しています。



釜石市で、岩手大生を含む岩手高等教育コンソーシアム連携の学生と一緒にボランティア活動を実施

三陸復興推進機構 生活支援部門

「ボランティア班」、「心のケア班」、「被災動物支援班」、「文化財保護支援班」、「地域コミュニティ再建支援班」の5つの班から構成されています。

学生及び教職員によるボランティア活動、心理学の活用による被災者の心のケア、附属動物病院の施設の活用などによる被災動物の健康サポート、被災した文化財の修復・保存の実施、地域コミュニティの維持・再建に向けた支援などを実施していきます。

主な取り組み

「**ボランティア班**」では、学生ボランティア団体「天気輪の柱」・「もりもり☆岩手」を中心としたメンバーにより、宮古市・陸前高田市での復興支援活動を支援しています。

【宮古市】YMCA宮古ボランティアセンターと連携し、市内の被災家屋等の片付けやイベント支援まで幅広い復興支援活動を実施

【陸前高田市】陸前高田災害ボランティアセンターを拠点に、ボランティア受付、ボランティアニーズ調査等を実施

（現在まで、延666名の学生、延307名の学生が参加）



宮古市内の
イベント



宮古市内での
清掃作業

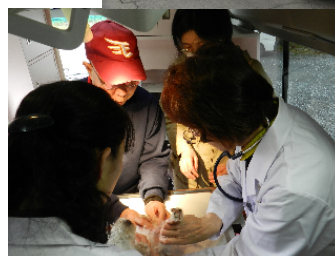
「**被災動物支援班**」では、移動診療車「わんにゃんレスキュー号」を使用し、被災地で動物診療活動や実施しました。

その支援活動に共感いただいたペットフード会社から移動診療車「ワンにゃん号」を寄贈いただき、継続して診療活動を行うとともに被災動物何でも相談会も実施しています。

震災直後の「わんにゃんレスキュー号」の活動実績

陸前高田市・大船渡市で合計5回にわたり移動診療を実施
・犬100頭、猫300頭等を診療

寄贈された「ワンにゃん号」



ワンにゃん号内での
診療

三陸復興推進機構 水産業復興推進部門

「水圏環境調査班」、「水産・養殖班」、「水産新素材・加工技術・加工設備開発班」、「マーケティング戦略班」の4つの班から構成されています。

水産資源調査から養殖、水産加工・機能性の付与、商品開発・マーケット開拓まで一体的に教育研究し、三陸独自の6次産業化を推進していきます。

主な取り組み

「水産・養殖班」では、三陸沿岸域での生物調査などを通じて津波の漁業への影響を把握するとともに、増養殖新技術開発を行い、それらの技術をモデル海域において実証し、漁業者の自立的な復旧を支援していきます。

具体的には三陸復興プロジェクトの一環として、今年度から、有用な機能成分を多く含む海藻アカモクの養殖試験を開始しています。



アカモク採苗作業



養殖施設への
取り付け

「水産新素材・加工技術・加工設備開発班」では、水生・陸生生物由来の生体調節機能を持つ成分を特定し、加工食品への適用可能性を明らかにして新規水産加工食品を創製していきます。

また、水産物の収穫・育成・管理や水産物の前処理などの水産関連作業を効率化・自動化・半自動化・高付加価値化させるためのロボットアシストを開発していきます。

今年度は、三陸沿岸の加工会社等と連携し、ワカメ・ウニ・サケを対象に「水産物高付加価値化プロジェクト」をスタートしました。



水産関係者との
車座研究会

水産物高付加価値化プロジェクトの概要

- 生ワカメ及び生ウニへの凍結貯蔵技術の適用による新商品の開発
- サケの新食感燻製品の開発
- 新魚醬製造技術によるアワビ等を用いた魚醬油の開発

三陸復興推進機構

ものづくり産業復興推進部門

「技術研究・指導班」、「人材育成班」、「インキュベーション班」の3つの班から構成されています。

岩手大学のものづくり技術を活かした新たな技術・産業の創出、沿岸地域の製造業に携わる技術者の育成などを実施していきます。

主な取り組み

「**技術研究・指導班**」では、これまで産学官連携により、釜石地区で開発したコバルト系合金の製造技術を踏まえ、(財)釜石・大槌地域産業育成センターに新たに導入する5軸マシニングセンタ等を活用して同合金など難削材の加工技術を習得し、生体材料、産業用部品の開発を行い、コバルト系合金などの難削材の製造から加工までのクラスター形成を目指していきます。



コバルト系合金を使った各種製品

「**インキュベーション班**」では、新規創業者や企業希望者を対象に、セミナーや個別指導を通じて事業参入や事業創出を目指していきます。

今年度の久慈市や釜石市で開催しました「女性起業家・事業家セミナー」では、商品開発、プレゼン手法といった企業支援の事例紹介や実際に起業した女性経営者と老舗企業の経営を引き継いだ女性経営者から岩手大学との共同研究によってなし得た新事業の事例が紹介されました。



久慈市で開催された女性起業家・事業化セミナー

インキュベーションセミナー開催実績

- 女性起業家・事業化セミナーin釜石
- 女性起業家・事業化セミナーin久慈

三陸復興推進機構

農林畜産業復興推進部門

「農地復興班(農耕回復グループ、水田農業のインフラ復興グループ、放射能調査グループ)」、「高収益型農畜産復興支援班(園芸グループ、畜産グループ)」、「林業・林産業復興支援班(復興ボードグループ)」、「農林畜産業復興総合計画班(林業振興グループ、総合計画グループ)」の4つの班から構成されています。

岩手大学がこれまで培ってきた研究成果を活かし、土壌の改善やインフラの復興などの農地復興支援、高収益型農畜産の研究開発、がれき廃木材等を活用した「復興ボード」の開発支援、ブランディング戦略の策定などを実施し、三陸沿岸の農畜産業の復興、活性化を支援していきます。

主な取り組み

「**農地復興班(農耕回復グループ)**」では、津波被害を受けた地域から土壌を採取し、その塩分含有量の指標となる電気伝導度の測定、土壌pHの測定を行うとともに、採取した土を用いて作物の発芽試験を行いました。

また、久慈市の農家に提供していただいた農地を実験区として、比較的塩濃度が高い環境でも生育できるソルガムを播種するとともに、陸前高田市では、いくつかのパターンに施肥した実験区でキュウリを栽培し、土壌の化学性の変化の経時的調査等を実施しています。

久慈市の
実験区



「**林業・林産業復興支援班**」では、震災がれき廃木材や林地残材の活用として「復興ボード」の生産技術の開発を支援すると同時に、「復興ボード」を復興住宅等へ活用するシステムの構築を目指しています。

具体的には、「復興ボード」を利用したパネル化構法の施工性、コスト、居住環境等の評価、検証を行っています。



復興ボードを
使用した仮設
集会施設

がれき廃木材
をチップ化へ



三陸復興推進機構 地域防災教育研究部門

地域防災教育研究部門での教育研究は、平成24年4月1日に設置された岩手大学地域防災研究センターが担っています。当センターの設置以前は、平成18年に設置された工学部附属地域防災研究センターが自然災害の発生メカニズムの解明や防災・減災システムの開発、小中学校での防災教育への支援や防災リーダーの育成などの活動を行ってきました。この度の東日本大震災を契機に、被災地の復興を推進し、地域防災に関する教育・研究・活動の拠点を形成するため、文部科学省からの支援を受け、それまでのセンターを強化・充実し、文理融合型の全学施設として再スタートしました。

当センターでは、地域特性に応じた「多重防災型まちづくり」と「災害文化の醸成と継承」を基本として、地域の視点に立った「ボトムアップ型防災システム」の構築を目指した研究を推進するとともに、被災地の大学として東日本大震災からの復旧・復興活動にも全力で取り組んでいます。

主な取り組み

3つの部門(災害文化部門、防災まちづくり部門、自然災害解析部門)におけるそれぞれ専門的な教育・研究・活動に加え、センターとしての活動も活発に行っています。

まず、自然災害や防災に関する様々な情報や最新の研究成果を広く知って頂くために、「地域防災フォーラム」を定期的で開催しています。



地域防災研究センター開所式
(H24.4.1)



特別講演：柳田邦男氏



一般市民、行政関係者等約400名が参加

岩手大学 復興支援活動MAP

凡 例



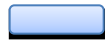
…ボランティア活動、イベント支援



…講演、研修会講師



…物資支援



…調査研究、技術支援



…有識者会議への参画



…その他

